

陽明学関係書 紹介と短評

○岡田武彦 著『王陽明大伝 生涯と思想』（四）（五）

（『岡田武彦全集』4、5）

二〇〇四年十一月、二〇〇五年十月。明德出版社。

A5版、297、398頁。

（四）

（五）

第十五章 贛州時代の心境と講学 第十八章致良知説の唱道

第十九章 陽明晩年の思想

第十六章 江西時代と宸濠の乱 第二十章 思恩・田州の靖乱

第十七章 陽明の苦難 終章 陽明の臨終

目次を見るだけで、王陽明の生涯がどのように展開した一生であることの概略が想像されるが、四巻を完成された後に、著者の岡田先生は亡くなられ、五巻は、草稿とメモが残された。それを本全集の編纂を担当されている門下生の森山文彦氏が、残されたものによって完成にこぎつけられた。付録に王陽明の精神を朗唱することを通して体得してほしいと作られた『警世の明文―抜本塞源論―王陽明の万物一体思想』（平成十年刊）の「抜本塞源論」と「王陽明の子孫」（先生から親しく教えを聞いた浙江省社会科学院の研究員銭明氏の著書より抄出）を併載している。

なお本書の口絵には王陽明の銅像の写真と「王文成公像贊」がある。像及び贊辞についての成立事情は本書を参照していただきたい。

○岡田武彦 著『王陽明と明末の儒学』（上）（下）

（『岡田武彦全集』10、11）

二〇〇四年六月、明德出版社刊。A5版、371、363頁。

本書の元版は、昭和45年、同社刊の一冊ものを上下二冊に分けて、下冊に、付録として『陽明学入門』（『陽明学大系』第一巻、昭和46年刊）所収の「陸王学譜」上を「陸王学の系譜」と改題して収めている。本書は絶版となっていて、古書で高価となっていただけに、この刊行は有り難い。

○岡田武彦 著『劉念台文集』

（『岡田武彦全集』13）

二〇〇五年六月、明德出版社刊。A5版、349頁。

本書の元版は、昭和54年に「中国古典新書」として刊行されたもの。これに劉念台に関する論考を四篇、付録として併載している。その出処は次の通り。

（1）「解説劉念台」（『陽明学大系』第7巻、『陽明門下』（下）

昭和49年刊。

（2）「劉念台と許敬菴」（『宇野哲人先生白寿祝賀記念東洋学論叢』

昭和49年、所収）

（3）「劉念台の誠意説について」（『中国思想における理想と現実』

昭和58年、木耳社刊。所収）

（4）「劉念台の誠意説」（九州大学『哲学年報』第十四輯所収）

次に陽明学関係の啓蒙書2冊紹介する。

○松川健二著『王陽明のことば』